

# 池田市DX行動宣言

令和5年8月7日

池田市未来創生戦略本部

本部長（池田市長） 瀧澤 智子

第7次池田市総合計画前期基本計画（令和5年3月策定。以下、「前期基本計画」という。）の計画期間である令和5～9年度の間においては、効果的かつ効率的な行財政運営の推進にあたり、「先端技術の活用によるサービスの効果的な提供や業務の効率化などを進め」ることとしています。

これに全庁体制で取り組んでいくにあたって、その考え方や推進体制などを定めた池田市DX推進指針（令和5年8月7日策定）においては、本市が当面の間に推進するDXの方向性を、①市民サービス、②行政内部の2方向に絞ることとしました。

この指針が定める方向性に沿ったDXを一層効果的なものとするためには、DXにより享受されるべき利益や成果を想定した中長期的な目標を掲げ、その目標からバックキャストिंगすることで、ゴールを見失うことなく日々の取組を積み重ねていくことが重要であると考えられることから、前期基本計画の終期である令和9年度までにおいて特に実現すべきDXについて、以下3つの行動目標を宣言します。

## 1. 「書かなくていい・待たなくていい・行かなくてもいい市役所」の実現

市民や事業者などを対象とした各種行政手続について、現行の手法が対象者・行政双方にとって非効率的なものとなっていないかどうかを聖域なく点検し、紙面への記入や押印、添付書類の提出などの作業を可能な限り省力化するとともに、効果的であると判断される分野においては、手続のデジタル化に積極的に取り組みます。

## 2. 庁内文化としての「原則ペーパーレス」の実現

行政内部のペーパーレス化について、環境面への好影響や印刷費用の削減などに加え、職員間の情報共有や意思決定の迅速化などの業務遂行上のメリットも大きいことから、今後も紙面を用いることの意義が大きい事例を除いた各業務の見直しやデジタル環境の整備、職員及び関係者の意識変革を進めます。

## 3. 「公共施設DX」の実現

公共施設について、各施設の価値や機能、利便性をさらに向上させるため、施設の利用手続や情報発信のデジタル化、その他各施設の役割や特性に応じたデジタル技術の利活用に積極的に取り組むことにより、利用者にとってさらに便利で、もっと使いたいと思っていただけるよう、施設それぞれの機能や価値を向上させます。